

## 地区行政懇談会 町長挨拶

最初に、現在の町の状況やこんな街にして行きたいといった話を少しさせていただいて、そのあと、町の事業の説明、懇談といった流れで進めたいと思います。

### ●町の現状について

- 国、県よりもはるかに早いペースで人口減少が進行している。
- 令和6年度に町で生まれた子供の数は12人。これは上松だけの話しではなく、木曾町で20人少し、木曾郡全体で60人少しという事で、一部の都市部以外は日本全体で人口が減って来ている状況。
- 町の人口も、昭和40年代初めころは約11,000人近くいたが、毎年100人位ずつ人口が減り、R6年2月に4,000人を割り、令和7年8月末で3,848人（5月末3,867人）。

### ●人口減少による弊害について

- 人口減少がすべて「悪」というわけではないが、人口が減るとどうなるか？
- 一般的に考えると、若い人が減って、地域に元気がなくなり、地区の行事などの担い手が少なくなって、地域の維持に大きな影響が出る。
- また、空き家、空き地や荒廃農地が増えたり、働き手が減ることで事業所が少なくなったり、子どもの教育環境にも少なからぬ影響が出てくる。
- 商店や診療所が減ったり無くなって、生活の利便性が低下したりもする。
- これは一例だが、こういった事が上松だけでなく、日本全国の山間地域や条件の悪いところで起こっている。
- そういう自治体では、知恵を絞っていろいろな取組みを必死になってやっている。

### ●現在までの主な取組みについて

- 上松は、人口が減ることに対応するために何をして来たのか？
- 一例をあげると、産業関係では、才児牧場に養豚施設誘致を行った。  
年間出荷頭数24,000頭と長野県最大の養豚施設で、雇用や税収、定住促進、特産品開発等に大きな効果が期待されている。
- 観光振興関係では、全国で古民家を活用した宿泊施設運営に取り組む県外企業（NOTE）と連携し、町内に点在する古民家、空き家を活用しての宿泊施設整備に取り組んでいるほか、寝覚の再開発にも取り組んでいる。
- また、小水力発電の取組みや、木工振興や地域振興のために「地域おこし協力隊」の積極的採用を行い、隊員の皆さんには町に新たな風を起こしていただいている。  
木工振興のための企業版ふるさと納税にも取り組んで来た。
- 子育て支援・移住定住促進関係では、小中学生給食費の実質完全無償化や未満児保育の充実、教育の支援や高校生の通学定期の補助、奨学金返済補助、定住する人への各種

支援金の創設、結婚や新生活の支援、空き家解体や改修への補助など、県内でも非常に手厚い、充実した支援を行ってきた。

### ●取り組みの結果について

- こうした取り組みを行ってきた結果、一時的現象ではあるかもしれないが、令和5年11人、令和6年16人と、転入者数が転出者数を上回った（社会増）。
- 社会増となったのは実に24年ぶりであり、これにより年間100人程度の人口減少が続いていたのが70~80人台の減少に改善をした。
- 県内でも社会増となっている自治体は多くはなく、木曽では上松町だけだが、これは、人口減少を緩やかにするための対策であり、日本全体の人口が減る中では、人口を増やすことはまず不可能な状況。

### ●町づくりの目標について

- では、そんな現実の中で、どんな町にして行きたいか。
- 都会のような便利さを求めても、それは難しい。
- だったら、人口減少対策を目的にするのではなく、「人口減少を止めることは出来ない」という現実に向きあって、「小さくても元気で、楽しく充実した生活が出来る町」にして行きたい。
- その結果、町に住みたい人を増やして、人口減少を緩やかにして、持続可能な町としていきたいという事。
  
- そのためには、「人口が減るから何もできない」とマイナスに考えるのではなくて、役場もしっかり取り組むので、町民の皆さんにも、「自分たちの生活が充実して地域が明るくなるように、自分たちでも前向きになんかやろうよ」・・・という風にしていきたい。
- 自分の身の回りにあること・・・例えば、「趣味」でもいいし、「草が生えるからどうしよう」でもいいし、「休耕田何かに使えないかな？」でもいいし、「話し相手がいなくてつまらない」でも、「お茶飲む場所が欲しい」でもいい。「もっと商売がうまくいくようにしたい」でもなんでもいい。
- 色々気になる事ややってみたいことを、「どうすりゃいいはずら」って自分達でも考えて、「なんか楽しく出来る事をやってみようよ」というようになると良い。
- キーワードは「面白がって、楽しんで・・・やってみようよ」という事。
- いくら意味のある事でも、面白くなければ人は動かないし、長続きしない。
- そんな小さな面白いことが、町中のあちこちで起こって・自分が元気になって、・地域も元気になる、そして、支え合う隣近所や仲間がいて、地域の中で自分が必要とされて、自分の居場所がある・・・その先に、「ここに住むことの幸せを感じられる」・・・そんな町にして行きたいなと思っています。
- 先日御神木祭がありましたが、あの熱気と人の波を見て、「人が少ないから何もできない・・・じゃないよね。町の未来は暗くない」との思いを強くしました。

## ●具体的な取組みについて

- では、行政はそれをさせるために何をするか？
- まず、住民の皆さんの話を聞いて課題を共有して、その上で、共に町づくりに取り組むことをお願いしたい。
- それから、先立つものが無ければ人は生活が出来ないので、外部の企業や人材も積極的に使って、産業や観光の活性化を図って、町に落ちるお金を多くする。
- そのお金が町の中で回る環境を整えて、生活できる基盤を作る必要がある（地域内経済循環）。
- そのために、今まで活用してこなかった町の資源（宝物・例えば、水、木・空気・風景・歴史・空家・空き地・人等々）の掘り起こしと積極的な活用を進めたい。
- それを実現するために、県の補助や国の交付金を積極的に活用したい。
- さらに、地域や住民の皆さんの活動を支援する体制の整備や、憩いの場の確保、買い物や足の確保、住宅や住環境の整備、空家の積極的活用を図りたい。
- 医療や教育などの広域的な課題には、県や広域連合、他町村との積極的な連携を図っていく。
- その他、商業支援や、安心して住める街づくりにも取り組んで行く。
- 行政関係では、財政構造や組織の見直し、職員の意識を変えて住民の皆さんの幸せのために働くという事を第一に考えるような組織としていきたい。

## ●終わりに

- この他にも、やりたいことややらなければいけないことが一杯ある。
- もうやっているものもあれば、これから着手するものもある。すぐ出来ることもあれば、5年10年かかるものもある。
- 行政の究極の目標は、「住民が幸せに生きていくことが出来る地域づくり」をすることだと思う。
- 色々な取組みをして、「人口は減るけど、若い人が帰って来れる、未来に希望の持てる、一人ひとりが幸せを実感できる」・そんな町を創って行きたい。
- でもこれは、役場だけではできません。
- 町の皆さんも、役場の職員と一緒に町づくりに取り組むことをお願いして、挨拶と、思っていることの一部を話して終わりとします。